

令和5年度 江戸川区立第二葛西小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	じょうぶな子 思いやりのある子 考える子 やりぬく子 *重点:自ら進んで取り組む	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	保護者・地域の理解と協力を得て、子どもたちに確かな力を育み、信頼と誇りのもてる学校 自分から進んで確かな学力、豊かな心、健やかな身体を身に付け高めよう取り組む子ども より質の高い授業、教育活動をめざし、子どもに寄り添い、子どもの喜びや悲しみを自分の喜びや悲しみにできる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・感染症に配慮しつつ、教育活動、学校行事を展開することができた。 ・安心で安全な学校づくりに向けた取組を進めることができた。 ・積極的な情報発信に努めることができた。 ・教職員が連携・協力しながら教育活動、学校運営を展開することができた。 <課題>・一人一人の課題に応じて基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた取組を充実させる。 ・一人一台のタブレット端末をさらに有効に活用できるようにしていく。 ・不登校や配慮が必要な児童等への対応をより一層組織的に取り組んでいく。 ・学校と家庭との連携・協働をより一層推進する。 ・教職員の働き方改革、校務の効率化をより一層推進する。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・週1回の全校一斉朝学習の実施 ・学校と民間による放課後補習の実施 ・5、6年社会、理科での教科担任制や各学年での交換授業等の実施 ・低学年からの学習習慣の確立と基礎学力の系統的な育成をめざした取組の推進	・学力を高めようとしているという児童90%以上 ・基礎的な力を身に付けているという保護者85%以上 ・6年の全国学力調査では都の平均を下回り、全国とほぼ同等の結果であった。 ・端末を使った全校一斉朝学習が定着してきた	B	C	B	・学力の向上は一向に進むものではないと思われるので、結果に一喜一憂せず継続して取り組んでほしい。 ・塾の利用を含め、家庭での学習にはさまざまな実態があると思う。はたらかけにはさらなる工夫が必要だと思ふ。 ・自分で調べてまとめる力を高めることは大切である。 ・家庭へのはたらかけ、地域図書館の利用などについてもさらに進めていくといふのではないかな。	・各学年のA、B、C、D層を分析し、特にC、D層へのはたらかけを強化していく。それに合わせて放課後補習の充実を図る。 ・5、6年の社会・理科に加え、各学年で交換授業、学年で連携した取組などをさらに推進していく。 ・家庭学習の強化策を検討していく。
	<読書書の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学校図書館スーパーバイザーによる指導を取り入れた「調べる学習」の実施 ・朝読書及び毎週30分間の読書活動の実施 ・地域図書館との連携の充実	・本をよく読むという児童70%以上 ・子どもは本に親しんでいるという保護者60%以上 ・読書が計画的に行われているという教員80%以上	B	C	B	・「本をよく読むという児童は約60%。機会を設ければ読む、自ら進んでが今一歩である。 ・調べる学習を各学年で積極的に取り入れている。	・学校図書館スーパーバイザーの指導による「調べる学習」を年度後半に計画的に実施していく。 ・読書感想文の紹介などを通しながら、子どもたちへの啓発活動を進めていく。
	<ICT機器を活用した教育活動の充実> ・タブレット端末を活用した授業の充実 ・校務の効率化の推進	・タブレット端末を活用した指導事例の蓄積及び整理 ・タブレット活用スキルの育成 ・タブレット活用ルールに基づく情報モラルの育成 ・校務の一層の効率化、ペーパーレス化の推進	・タブレットを使った学習が楽しいという児童90%以上 ・タブレット端末の活用が進められているという保護者80%以上 ・ICTを活用した授業が行われているという教員90%以上	B	B	B	・タブレットを使った授業が楽しいという児童は約90%。 ・授業での活用が定着してきた。 一方で一斉指導の中での活用が多い。個別最適な学習の充実を図っていくとよい。	・新しいツールを使って教育が充実していくことはとても大切である。 ・PTAでもペーパーレスに取り組んでいるようだが、そうした流れが広がっていると思う。働き方改革にもつながっていくとよい。 ・校務の効率化、ペーパーレス化を一層推進する。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲の向上と健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	・毎週30分間の全校運動遊び及び元氣アップタイムの実施 ・学校隣接の公園を活用した遊び場の拡充 ・アスリートによる授業やバラスポーツ体験の実施	・体力を高めようとしているという児童90%以上 ・子どもはよく身体を動かしているという保護者60%以上 ・体力向上に向けた活動が充実しているという教員85%以上	B	B	B	・学校の努力は認めるが、子どもの体力は放課後の過ごし方、家庭の取組が大きく影響しているのではないかな。 ・夏が大変暑くなってきたてプールも中止するような状況である。これからの夏の運動を考える時期なので。	・運動会に向けた取組やプールでの活動が中心になっていたが、年度後半は授業や休み時間の質の向上を図ってきた。 ・家庭へのはたらかけをさらに進める。 ・夏の運動については長期的な視点で検討していきたい。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、及び共同学習の実施・充実	・おおよそ学級での指導の充実 ・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、エンカレッジルームの活用、日本語指導員や日本語教室との連携 ・副籍交流及び通常の学級と特別支援学級の交流の充実	・配慮を要する児童への支援が適切だという教員80%以上 ・スクールカウンセラーが効果的に活用されているという教員85%以上	A	B	A	・不適応児童への対応の検討、評価、改善のシステムが機能してきた。 ・特別支援学級児童の通常の授業への参加など個別の対応にも努めている。	・配慮を要する児童の状況がさまざまであり、対応に苦慮するところも多い。より組織的に、また関係機関との連携を強化して対応を進めていく。 ・日本語指導が必要な児童も増えてきた。そうした児童への支援の充実も必要で、学校外の方もさらに活用できないかな。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・QUテストや各種アンケートによる児童の実態把握とそれに基づく指導の推進 ・友だちのよさを見つける取組の推進 ・低学年からの基本的な生活習慣の系統的な育成をめざした取組の推進 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・進んであいさつをしているという児童85%以上 ・子どもは約束やまじりを守って生活しているという保護者85%以上 ・いじめや不登校解消に向けた取組が組織的に行われているという教員95%以上	A	B	B	・進んであいさつをしているという児童は約80%。 ・重篤ないじめの状況はみられない。どこもつながりのない不登校児童はいない。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用事例が増えており、効果がみられる。	・不登校対策委員会を定期的に関き、組織的な対応が進んでおり、その取組を不登校の減少につながっていく。各種のテストやアンケートの結果も、担任個人だけでなく組織として受け止め、改善につなげるようにしていきたい。 ・いじめの未然防止に向け引き続き取り組んでいく。
	<豊かな心の育成> ・特別活動や道徳を中心とした豊かな心の育成の推進	・委員会活動や係、当番活動、異学年交流などの充実 ・展覧会の実施などによる豊かな感性、情操の育成	・当番や係をしっかりとやっているという児童90%以上 ・子どもの友人関係は良好であるという保護者90%以上	B	B	B	・当番や係をしっかりとやっているという児童は約85%。 ・たてわり活動なども積極的に取り組むようになってきた。	・子どもの自主性を大切にしながら取組を充実させていく。 ・展覧会や宿泊活動、校外学習の充実を進めていく。
	<地域に広く開かれた学校(園)の実現> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校のホームページの毎日の更新 ・年3回の土曜参観の実施	・学校の様子がわかりやすく伝えられているという保護者90%以上	A	A	A	・学校ホームページには13万件のアクセスがあった。参観も通常の形で実施した。	・12月の個人面談の機会なども生かし、個別の相談、発信にも力を入れていく。
特色ある教育の展開	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評価の一環として行方児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施 ・運動会等の行事への保護者アンケートの実施と公開	・保護者アンケートの回答率80%以上	A	A	A	・中間評価で児童アンケート、教職員自己点検を実施した。運動会アンケート等も参考にしている。	・後半は保護者アンケートも実施予定である。 ・学校評価を踏まえて令和6年度の経営方針、教育課程編成を進めていく。
	<安心・安全な学校づくりの推進> ・自分の身体、命を自分で守る力の育成	・さまざまな災害を想定した訓練の実施 ・警察等と連携した交通安全教室、セーフティ教室、薬物乱用防止教室などの推進	・健康や安全に気を付けて生活しているという児童90%以上 ・防災、防犯、交通安全の取組が適切に行われているという教員95%以上	A	A	A	・健康安全に気を付けているという児童は90%以上。 ・避難訓練、引渡訓練等を計画的に実施した。	・地域でもさまざまな活動が行われているので、そうした取組より一層連携していくことができると思う。 ・熱中症を含め、大きな事故などはみられておらず、この状況を継続していきたい。 ・朝の登校見守りなど警察にはたかさんの協力をいただいているので、引き続き連携していきたい。
	<働き方改革の推進> ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・月2回の定時退勤日の設定 ・会議等の効率化、組織改革の一層の推進 ・ペーパーレス化の一層の推進	・全教職員の月残業時間55時間以下 ・時間外勤務の縮減に努めているという教員80%以上	A	A	A	・時間外勤務時間の縮減傾向が続いている。 ・ペーパーレスが進んでいる。	・繁忙期においても勤務時間の縮減を進めていきたい。 ・仕事自体の効率化を推進する。
<教員の資質・能力の向上> ・教員研修の充実	・一人一人の教職員のニーズに応じた研究・研修の推進 ・若手教員の組織的な育成	・全教員の年2回の授業公開の実施 ・資質・能力の向上に努めているという教員80%以上	A	B	A	・一人一人が主体的に学ぶ校内研究を進めている。若手育成の研修も定着している。	・若い教員も多いと思うが、一人一人が確かな指導力を高められるよう期待している。	